

## 技術力・収益力誇る会社へ

### 凸版印刷川口工場

6月14日正午過ぎ、JR川口駅前に25人が集合、路線バスに分乗し、約20分で凸版印刷川口工場へ。凸版グループの出版印刷の総合拠点で、印刷から製本までの一貫体制で操業している。工場の概要の説明を受けた後、2班に分かれて見学、さらに隣接する「安全道場」に移動、安全研修を体験した

工場では、コミック誌、料理本文庫本、語学のテキストなどが、次々と印刷、裁断、製本されて行く。グラビア印刷、オフセット印刷、凸版、凹版の仕組みの説明を受けた。

同工場は、1988年の操業、自動車工場の跡地12万5000㎡に建設された。協力会社の常駐者500人を含め1100人が、2、3交代で勤務、ほとんどが男性で女性は製本部門を中心に5%にとどまる。

印刷需要は減少傾向で、凸版グループとして生産の効率化による利益の確保が課題。工場の建屋に掲げられていたスローガンは、規模を誇る会社から、技術力、収益力を誇る会社への変革。印刷テクノロジーと情報武装化により新時代を切り開くという。ICタグによる入場チケット、スマートフォン利用の電子チラシなどを提供している。



「安全道場」では、ローラー、裁断機などを模した設備で、巻き込まれ事故の疑似体験。安全師範の資格を持つ指導員は、設備に組み込まれている安全装置を無効化することが事故につながることを強調した。道場は、凸版グループの研修所内にあり、研修者全員が体験する。こうした安全への取り組みで、労災事故は減少傾向という。

約4時間の見学会の後、川口駅近くの中居居酒屋で懇親会。21人が参加した。(中川隆生)